

短期経済観測調査 結果の概況（茨城県）

進展に伴う商罷免への影響懸念（小売り）もあり、
前回比下方修正された。

平成 13 年 10 月 1 日
日本銀行水戸事務所

【業況判断】

～製造業・非製造業とも悪化～

製造業では、半導体をはじめとする IT 関連需要の減退等を背景として、化学、非鉄金属等素材業種を中心に一段と業況が悪化した（13/3 月▲27%→6 月▲40%→9 月▲50%）。また、非製造業も、業者間の競争が激しさを増す中、売上げ減や料金の引下げなどを余儀なくされる先が増えており、現状▲39%と前回（▲30%）比悪化した。

先行き（12 月までの予測）については、公共投資の減少や消費態度の慎重化等を懸念し、「悪化」を続けるとの見方。

【製品需給、在庫、価格判断】

IT 関連等の需要落込みを反映して、製造業の製品需給は、大幅な「供給超過」の状態を続けている。

在庫水準については、製造業における生産調整の遅れもあって、足許過剰感が強まっている。

仕入価格は、製造業、非製造業ともに、「下落」超に転じ、販売価格も、大幅な「下落」超を続けている。

【売 上（13 年度）】

売上げは、製造業が IT 関連業種を中心に、下期にかけて大幅に下方修正されたことから、前回調査とは様変わりの減収となる見通し。また、非製造業も、住宅・公共投資の落込み（建設）や構造改革の

【経常利益（13 年度）】

製造業では、人員削減等の合理化効果により増益となる先もみられるが、IT 関連業種の売上げ減少や販価の下落等から、前回比下方修正する先が多く、前回の増益予想から減益に転じる見通し。また、非製造業も、規制緩和や大手企業の進出に伴う競合の激化等から、販価の下落が続いており、建設、卸・小売をはじめ、大方の業種で減益となる見込み。

【設備投資額（13 年度 ソフトウェア投資額を含む）】

製造業では、業績の下方修正や先行き不透明感の台頭などから、大規模な能力増強投資を縮小ないし延期する動きがみられるなど、前回比大幅に下方修正されており、前年を 1 割方下回る計画となった。一方、非製造業は大型投資案件の計上に伴い前回比上方修正されたものの、前年高水準を記録した不動産、サービスの反動減が響いて、なお前年を下回っている。

【雇用人員】

鉄鋼、一般機械、建設等で、足許過剰感が増している。全産業の雇用人員は、前年比小幅の減少が続いているが、パートは製造業中心に増加を続けており、雇用形態として常用からパートへの移行が進んでいる。

【企業金融】

資金繰りについては、売上げ減少の製造業を中心に、「苦しい」とする先が増えており、金融機関の貸出態度も、先行き厳しくなるとの見方。もっとも借入金利は、このところ「低下」気味となっている。

◇業況判断D.I.（「良い」－「悪い」）の内訳

